

2023年6月26日

学校法人三幸学園  
名古屋ビューティーアート専門学校  
校長 古渕 泰弘 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 小栗 慎司

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 小栗 慎司 (株式会社 shin 代表取締役)
- ② 酒元 春菜 (第9期卒業生)
- ③ 水澤 順一 (飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス キャンパス長)
- ④ 國島 徳博 (株式会社インテンド 代表取締役)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月26日 (会場 名古屋ビューティーアート専門学校 別館2階201教室)

##### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022年度 学校法人三幸学園名古屋ビューティーアート専門学校

## 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小栗 慎司

### 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

### 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### ① 前年度重点施策振り返り

##### 1. 社会人育成の場として、社会人に必要とされる心の育成強化

→マナー・ルール・モラルについて理解をし、自らの行動や発言にも反映させて生徒指導が行えるよう、教職員の意識を変えていくことに注力した。その結果、良い風土が作られ、意欲を高く持ち、様々なことに取り組む生徒の様子から社会人基礎力が身につけていることを実感できた。

##### 2. 就職支援、退学率の低減、資格・検定取得率の向上

→就職支援の情報提供、就職(社会人)指導の統一のため、資料・実施コンテンツの統一化を図った。

→長期欠席者等への対応を担任のみならず、全教職員で関わる(生徒1人に対して全教職員で関わる)ことで、退学防止の対策を行った。

→資格取得の高い合格率を維持、またはさらなる合格率アップを図るため、検定対策 WEEK の確保、補講日の確保を行い実施した。

##### 3. 基本的な生活習慣の徹底(あたりまえにできる行動の徹底)

→生徒への基本的な生活習慣(挨拶・清掃等)を指導する教職員自ら率先して行うことを実施。

全教職員から風土・雰囲気を変えていき、生徒・学校全体に浸透させた。

#### ② 学校関係者評価委員会コメント

ビューティーアート卒業生は仕事をする際のモチベーションが高く、自ら率先して動くことができる。今後も生徒の社会人基礎力を育てる教育に期待している。(小栗委員)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

学校の理念・目的・育成人材像について、今年度の新入生とその保護者については、入学前のオリエンテーションを通して伝えることができているが、出席していない新入生・保護者への伝達が課題である。また在校生については、就職対策や未来デザインプログラムの授業内で伝え続けているが保護者にも定期的な発信を行う必要性がある。

業界のニーズに関しては、従来の企業様との関係性の中から情報収集されているが、コロナ感染症後の変化に着目し、生徒の教育や就職等に対してスピーディーな対応が求められる。

#### ② 今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像については、生徒だけでなく保護者に対しても定期的な通信(SankoGate)での連絡、学期始めにお送りするご連絡文等)で発信を行い、理解を深める。

業界のニーズに向けた人材育成については、特に社会人基礎力を強化するための指導・教育の拡充を図る。また企業様にご来校いただいての特別授業などで職業観の醸成をし、円滑な就職活動や就職決定後の早期離職を防ぐことで、業界のニーズに向けて方向づけられた人材育成を行う。

#### ③ 特記事項

2021 度改定したカリキュラムポリシーに基づき、教育目標やディプロマポリシーを達成しやすいように教育課程を整理した。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

ビューティーアートの卒業生は、困難なことに遭遇した際の頑張りの上限が他の学校の卒業生よりも高く評価できるため、独自の教育によるものと感じる。今後も学校の理念に基づいた人材育成をすることで業界のニーズに合う人材が輩出されることを期待する。(酒元委員)

ビューティーショーや求人ガイダンス等の行事でかかわったビューティーアートの生徒は、挨拶がしっかりできる印象があり、明らかに他校の学生と違うと感じる。美容分野において求められる能力であり、今後も継続して育成していただきたい。(國島委員)

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

目的や事業計画に沿った運営方針は策定されており、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され運営されているが、情報システム化による業務効率化についてはスムーズな活用までに時間がかかっている。また、新入職員や時短勤務職員が多いため、スキルや対応可能時間で業務割り振りを行うと個々の業務バランスに偏りが生じている現状がある。

### ② 今後の改善方策

情報システム化の活用利点を浸透させ、業務効率化を図ると同時に、新入職員の育成、時短勤務職員の適材適所での業務分担割りを図り、全職員の時間確保をしていく必要がある。また、中堅層へ意思決定や業務確認の担当者として業務対応の幅を広げていく。VR 授業・デジタルテキストの導入など新しい教育ツールについては、一定の効果が体感されているが、今後検証は必要とされる。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

情報のシステム化導入という点では、業界でも顧客の「電子カルテ」化導入が図られている。業界全体での導入はまだ3割程度だが、支店間で情報共有ができ、業務効率も良いため、今後は業界全体で発展していくと思われる。教育の現場においてもさらなる ICT 化を実現していただきたい。（小栗委員）

姉妹校のきずな高校で全員に教材としてタブレットを配布し授業を行っている。次世代の入学者は ICT 化を標準として順応している世代。教職員の ICT 教育にも力を入れていくことが急務である。（水澤委員）

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

生徒数の増幅により、学校規模が拡大しているため、負担の軽減や教育の質向上のため教員採用(確保)に努めていく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

教員の指導力向上研修の場を計画的に増やすことと、生徒が社会・現場に出た時に必要とされる技術・知識・スキルの育成知識を向上させるために新しい学び(city & guild など)の場を増やしていく。教職員採用については、活躍している有能な卒業生も多いため、卒業生採用を積極的に進めていく。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

授業を行うことができる要件を備えた教員確保が急務とのことだが休眠美容師がかなり多くいる現状だ。結婚を機に辞めた美容師免許取得者など資格が活かされていなく勿体ない。卒業生へハガキなどで求人を出すなどして三幸学園の人材育成マインドを理解した卒業生を教職員として迎えるのもよいのではな

いか。(小栗委員)

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

恒常的な資格試験合格率の向上を目指すことと、退学者低減のための教務対応策は課題と考える。コロナ禍の終息によって就職率は一昨年度よりも向上することができた。今後は就職率を100%にするために必要な生徒の社会人基礎力の向上に向けた取り組みと共に就職先企業との良い関係性の継続が課題である。また今年度からスタートする有給インターンシップの求人票獲得のため企業へ働きかける(企業理解)ことが必要である。

##### ② 今後の改善方策

企業様との関係構築を図るべく、企業訪問等積極的なアプローチを進める。具体的には卒業生の動向を確認する、自校開催の企業説明会への参加依頼等、様々な面での結び付きを持てるようご依頼する。

退学者低減については、生徒・クラス状況の早期共有を行い、担任だけではなく全教職員で全生徒の対応を行っていくとともに、学年担任制導入やメディア教材(自主学習用)について検討していく。

##### ③ 特記事項

退学については、精神疾患、目標喪失、人間関係という理由が多い。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

通信制高校卒業生の退学率が多いことに関しては、退学理由を考えることが大切ではないか。通信制の生徒も千差万別であり生徒タイプを見極める必要がある。職種選びの理解が不足したり、オープンキャンパスと在学してからのギャップが大きいと目標喪失しやすい。職業訓練校と高校での教育の目的観点の違いがあるから、姉妹校としての利便を活かし、情報交換を引き続き行うことが必要だと感じる。(水澤委員)

#### (5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4

課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制は検討が必要である。同窓会LINKの定期的な配信を含め、新しく導入した卒業生LINEの運用も進め、卒業生との関わりの幅を広げる対応が必要である。

② 今後の改善方策

卒業時に同窓会LINK、卒業生LINEの登録を図り、卒業生との関わりを定着させる。卒業後も学校との関わりを継続し、卒業生支援として学びの継続ができたり、その他支援が受けられることを周知していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

サロンでは SNS の発信力を重視する傾向があるが、対面でのコミュニケーションが何よりも大切である。引き続きコミュニケーション力豊かな学生の育成を希望する。そのためには業界との産学連携や様々な団体の主催する催しなどに任意参加できる体制を充実させていってほしい。(小栗委員)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

災害を想定した避難訓練の内容見直しと実施の継続が必要。教員の避難訓練の内容・頻度も強化する必要がある。事故につながらないよう、常に教室環境設定の確認をする必要もある。

また新型コロナウイルス感染症の影響がなくなったことにより施設実習の実施が必須となるだけでなく、TB 科・ES 科では有給インターンシップも開始される。業界での学び・知識の定着を求める学生の意欲に応える受け入れ先を確保し、軌道に乗せることが必要となる。

② 今後の改善方策

全教職員による避難訓練(避難経路・消火活動)を行い、防災・安全管理の意識を継続に担保してい

く。非常口・非常階段・消火機器・防火扉の点検等も常日頃から行う。地震対策のための周囲落下物・転落防止のための対応強化も行っていく。

③ 特記事項

2023 年度より海外研修が再開される。ビューティーアートではヨーロッパ、韓国、パリが渡航先として選ばれている。

2023 年度より教室が増え、学べる環境を整えている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

時間がある学生時代にしか行けないところへ研修に行き感性を磨くことはとても大切だと感じる。幅広い研修先の検討が望まれる。(酒元委員)

学校内にレセプションから誘導まで学ぶことができる施設があり、サロンワークの授業で有効活用することでより職業観がより深まり、退学率も減らせるのではないか。(小栗委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

愛知県の規定に沿って適切に募集活動を行っているため大きな課題は無いが、定員充足による募集停止が想定されるため、その際の対応は慎重に行う必要がある。

② 今後の改善方策

AO 入試や特待生入試等の入試方法について、説明不足から誤解を招いて受験希望者の不利益にならないように配慮していく必要がある。

募集定員の充足状況については、HP や SNS への掲載とオープンキャンパスで早めに告知を行う。また高校へは早めに告知(周知)して、信頼関係を損なわないよう配慮する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

ビューティーアートには、トータルビューティー科でメイク・エステ・ネイルの技術や知識を学んだあとにプラス 1 年で美容師免許も取得できる研究科がある。コロナ感染症後、美容師免許取得ニーズが高まっているため、募集活動の際広く知ってもらうこと広報活動が望まれる。(水澤委員)

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守については、職員に対して一層理解を深めるための働きかけを継続する必要がある。

### ② 今後の改善方策

有休休暇の取得、フレックス制度の積極的な活用については、今後も啓蒙活動を行う。

時間外労働の削減については、職員一人ひとりのスキルアップを図り改善のための働きかけを継続していく必要がある。

### ③ 特記事項

18歳成人に法令が変更したことに伴い、「誓約書・保証書・同意書」や入学願書の書類にて、「保護者」は保証人に変更している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

アルバイト等については法令等を遵守するよう学校として注意喚起が必要ではないか。（國島委員）

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

### ① 課題

教育効果を得ることができる地域貢献活動を、今後積極的に参加すること、新規活動の参加機会を増やすことが必要とされる。

### ② 今後の改善方策

技術提供や接客を通して教室内では学ぶことができない教育効果が期待できるため、サロンワークの授業や模擬サロンなどの行事を通して社会貢献・地域貢献を行うことが必要である。

また地域社会の一員という自覚をもつことで、近隣の方への配慮や思いやりの心を醸成する。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

当サロンのZ世代と言われる若手世代は、ボランティア活動に対して比較的意識高く参加している。ビューティーアートは商店街の中に校舎を構える学校であり、商店街を構成する一員として地域貢献活動に積極的に参加することで、社会人基礎力もさらに養うことができる。（酒元委員）

## (11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

### ① 課題

留学生の入学は毎年数名程度、積極的な募集活動は行えていない。

### ② 今後の改善方策

コロナ感染症が終息した現状から、今後留学生が増加した場合を想定し支援体制作りを進めておきたい。また、留学生に対する進路（就職）斡旋の強化と情報収集は行っていきたい。

③ 特記事項

コロナ禍により留学生の在校生はいない。次年度の入学希望者には、ヒジャブをつけている人もいるが多様性を受容できる学校を目指す。

④ 学校関係者評価委員会コメント

コロナ感染症の終息で、今後留学生が増えることが予想されるが、多くの留学生を受け入れることで、在校生も狭量な価値観に留まることなく成長できる。また少子高齢化が進む中では、留学生の力を活用することは社会的な命題である。これからも広く開かれた学校として留学生受け入れだけでなく、国際交流を促進していくことが望まれる。(水澤委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度は、新型コロナウイルス感染症が少なからず影を落としていたが、各種アンケート数値(生徒満足度)や就職率アップなど、前年より良い結果が出せたと言える。これを継続していくためにも自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、業界や企業、地域から必要とされる学校(人材)になるために課題を把握し、学校運営を行っていく必要がある。

2023年度は教職員の育成に重点的に取り組み、一層学園のミッション・ビジョン実現と美容分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向けての体制強化に努める。